資料⑤

①交付金のあり方

	課題解決のアイデア	具体的内容
1	使途の自由度の向上	できないこと以外は自由にし、細かいことは協議会で決めることで、地域自治の推進につなげる。
2	配分に関する市の考えの明確化	交付金配分方法に不公平感が出ていることについて、市の考え方を明確にする。
3	3,500人の配分額頭打ちの撤廃	基礎事業の規模加算や子育て支援・青少年育成事業の配分額の頭打ちを撤廃して、適切な配分にする。
4	事務局員給与の上限撤廃	令和5年度の暫定措置を恒久的に導入する。
5	積立制度の導入	計画に基づいた積立を認める。
6	別会計の導入	100万円以上の余剰金を一律市に返還するのではなく、自分たちでがんばって得た収入を別会計で運用する（別法人化）。あわせて運用ガイドラインを策定する。
7	ターゲットを絞った使途の緩和	全ての分野において皆の合意を得られる基準づくりは困難なため、柔軟に使えるターゲットを絞る（自治会加入促進につながる取組み、子どもに対する施策など）。協議会と自治会の相互理解が重要なため、コミュニケーションをとることに権限と裁量を持たせる。
8	団体補助金の交付金への一本化	地域のいろいろな団体の補助金を郷づくり交付金に一本化し、お金の流れを通じてつながりを作り出す。

②拠点のあり方

	課題解決のアイデア	具体的内容
1	利用方法の緩和	郷づくりが身近な施設となるように、また拠点を使うハードルが下がるように。（例）連携団体の利用、夜間利用、地域貢献できたり市民が楽しむ目的の営利利用（マルシェ等）、飲み食いを交えた交流、スマートロックの活用（鍵開閉の負担軽減）
2	貸出条件勉強会の開催	協議会と市で貸出条件に認識のずれがある。両者が条件を再確認し、より効率的な貸出につなげる。
3	各種展示会の開催	コミュニティスクール展示会・自由研究展示会を開催することで、学校関係者や親子に拠点に来てもらい、郷づくりが認知される。
4	子どもの居場所の設置	ゲーム・漫画等を置いて、子どもの居場所になるような部屋をつくる。
5	学校との連携拡大	学校がそばにある利点を活かす。
6	利用ルール緩和のモデル地区の試行	協議会の使い方リクエストにもとづいて、モデル地区を設けて試してみる。
7	地域の困りごと相談窓口の設置	移住者などが市役所に聞くまでもない困りごとを地域の入り口で相談できる場所にする。
8	拠点管理と使用料の一括管理の導入	協議会に管理を一任することで利用者が使いやすい施設になる。
9	拠点への移動手段の確保	遠くからも来られるように、デマンド交通の導入、ふくつミニバスのルート変更などを行う。
10	災害時の拠点活用	指定避難所までは遠くて行けないけれど、拠点には来られる人もいる。
11	愛称の設定	子どもと一緒に考えた愛称をつけることで拠点に親近感が持てる。拠点に関心を持ってもらうきっかけにもなる。

③人財育成・確保

	課題解決のアイデア	具体的内容
1	若い世代ファーストの仕組みづくり	若い世代（現役世代）が参加しやすい日時に活動や会議を設定する（平日夜・土日）。それに合わせて拠点の開館時間も変更する。
2		気軽に関われるアイテムを増やし、入口を広げる（短時間のかかわり等）。
3		一人一人ができることをシェアする。
4		郷づくりLINEでの連絡、Zoom会議の開催により、負担軽減につなげる。
5	多様なつながりづくりに取り組む	郷づくりと連携団体とのつながりが部会や行事ごとのつながりにとどまっているため、根幹のところでつながりを持つ。
6		連携団体を増やして、間接的に人とつながっていく。
7		協議会からアウトリーチしに行く（例）公民館に出張して郷づくりのＰＲ、防災等テーマを設定しておくと話を聞いてもらいやすい）。
8		中学生の力を借りる（中学生主催のスマホ教室やZoom教室）。
9		子どもや学校との共働（例）南しょっとフェスタ、地域の運動会、学校にXmasイルミネーション、子育てサロン
10		市公式LINEに郷づくり情報を定期的に載せることで郷づくりの認知度が上がる。（例）郷づくり会報、部会員の入会方法
11		年に1回、郷づくり全員集合！「〇〇の日」を設定して、一緒に汗を流し、お楽しみも加える。皆が共に汗することで一体感が生まれる。
12		小学校卒業後も子供や保護者に関わってもらえるように、メール会員制を導入する。
13		自治会長のグリップ力を強化する（地域住民の把握）。
14	協議会の意識変容	若い人がやりたいことをやらせてみる。
15		失敗に寛容で、そこから新たな取り組みにつなげるなど、変容を楽しむ空気を作る。
16		若手が自由にできる別会計を設ける（若手の柔軟な発想を取り入れる）。
17	既存の取組みの工夫	今やっている行事の中に、すでに人材育成や確保につながるものがあるため、工夫や声掛け次第で人材確保の可能性が広がる。例えば、開催までのプロセスの中に人に関わってもらう機会を増やす。協議会主催のイベント時に「人財育成」を意識することで参加者への声かけも変わるし、次回、参加者が手伝いに加わっていくような副産物も生まれる。
18	会員属性の構成にバランス指標を設定	年齢ごとの人数を整理して世代バランスをとる（６０代を増やす。役員の３割または3名は女性登用）。
19	郷づくりという事業名称の変更	郷づくりの名称を大胆に変えることは話題性があり、新しい世代を取り込むきっかけになる。
20	ＰＴＡと協議会の役員交代	郷づくり役員がＰＴＡ会長をする代わりに、ＰＴＡから郷づくりにスタッフとして入ってもらう。

④市の関わり

	課題解決のアイデア	具体的内容
1	有用な情報の適切な提供	情報の種類を整理し、優先順位をつけて提供する。
2		市が他郷づくり地域の良い取組を情報提供することで、「自分たちもやってみよう！」という競争の原理が働く。
3		職員の郷づくりに対する知識・関心・認識を協議会にフィードバックし、郷づくりの活動に活かす。
4	依頼すること任せることの整理	地域がやりたいことを実践できる仕組みづくりをする。
5		郷づくりに頼むことを整理する。
6		郷づくりが決めることに自由度を与える、地域に任せる。
7	対話の場の設定	市と郷づくりが未来志向で対話する場をもつ。
8		職員と協議会でお茶会を開催する（肩書を外して）。
9		市長と会長の懇話会を開催する（方向性の把握）。
10		地域が市に交渉できる場づくりをする。
11	支援の基本姿勢の改善	地域が自助できるようにサポートする体制づくりをする（人・物・お金）。
12		全職員が地域ごとの特徴や違いを認識した上で、地域にアドバイスする。
13		門前払いしない仕組みを作ったり、「すぐやる課」等スピーディーに対応できる窓口を設置する。
14		励ます（他地域との違いがあってもいい、自分たちのやり方でいい）。
15		8地域に対して一律の対応ではなく、地域に合わせて対応する。
16		市は郷づくりに伴走して支援する（市に伴走してもらえると安心する）。
17		小さな声も拾う。
18		地域が困った時に、地域担当職員が分かる人・分かる部署につなぐ役割を担う。
19	職員研修の実施	職員誰もが郷づくりのことが理解できるように、郷づくりの取組みに関わる。
20		市と地域が相互通行で話ができるように、職員全体の知識の底上げをする（職員研修等）。
21		郷づくりについて再認識し（下請けイメージの払しょく、実態把握）郷づくりへの誤解を解く。
22		職員のやる気を高める（内発的動機づけ）。
23	その他	海側だけでなく山側の開発をする（企業誘致を機に、企業との連携につなげる）。
24		職員の時間外の地域活動について、人事評価に組み入れる。
25		1地域に2人以上の担当議員をつけることで、郷づくりを視覚化する。

⑤その他

	課題解決のアイデア	具体的内容
1	郷づくり同士のつながりづくり	他地域との情報交換をする（子育て分野）。1回目は市が設定してもらえば、2回目以降は協議会でできる。
2		郷づくりが横でつながっていき、対話の場を作ってそれぞれの活動に生かし、前向きマインドを醸成していく。